

# 高崎市の中心市街地活性化基本計画について

高崎市商工観光部商業課 樋口 健一

## 1. はじめに

高崎市は日本列島のほぼ中央部、群馬県の中西部に位置し、面積約 460km<sup>2</sup>、人口約 37 万 5 千人の都市で、首都圏と日本海を結ぶ交通の要衝として、新幹線が 2 路線、JR 在来線が 5 路線、私鉄 1 路線、高速自動車道 2 路線、国道 4 路線が集中する全国有数の内陸交通の拠点となっています。さらに平成 23 年 3 月には北関東自動車道が常陸那珂港まで全線開通、平成 26 年度までには北陸新幹線の金沢までの延伸開通により広域的な集客力が期待できます。また、平成 23 年 4 月には中核市に移行します。

高崎は、江戸時代、中山道随一の宿場町、城下町であるとともに、生糸などの交易が活発な商都として発展を遂げてきました。近代に入り、道路だけでなく鉄道の交通結節点となってからは、商業都市としての性格を強め、1960 年代以降、中心市街地ヘパートなどの立地により、商業集積を高めてきました。近年では、2 路線の新幹線の開通にともない、高崎駅の交通拠点性がさらに高まったことにより、高崎駅西口周辺地区に商業集積の中心が移ってきています。

現在の中心市街地では、百貨店、商店街を中心に様々な年齢層による消費がみられるなか、モータリゼーションの進展や大型商業施設の郊外立地、経済の長期低迷などから、中心市街地の衰退に歯止めがかからない状況となっています。

高崎市では、これらの課題に対応するために、旧来の「高崎市中心市街地活性化基本計画（平成 12 年 3 月策定）」の全面的な見直しを行い、新たな「高崎市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成 20 年 11 月に認定を受けました。



高崎駅西口周辺

## 2. 中心市街地の特性

高崎市の中心市街地は「商都高崎の中心地」、「広域交通拠点」として発展した歴史的経緯があります。今後、高崎都市圏全体を牽引する中心市街地として、さらなる発展をめざす際にも、この2つの特



群馬音楽センター



高崎音楽祭

性を最大限活用すること、また、戦後、群馬交響楽団の結成以来、「音楽のある街」として広く知られ、多様な音楽イベント等に活発に取り組んでいます。今日、“音楽”は、高崎市民に定着した“文化”でもあるとともに、音楽イベント等は、高崎の中心市街地を特色づける最も重要な要素であることから、“音楽”を活かした特色ある中心市街地づくりを目指すことが求められます。このような認識から、中心市街地の活性化の方向性を考える際に、特に活かすべき特性を、「交通」、「商業」、「音楽」の3点に集約することができます。

### 3. 区域

中心市街地の区域は、広域交通ターミナルの拠点である高崎駅、行政・文化等の公共公益施設や商店街など主要な中心市街地機能が集積し、かつ計画期間中に取組むべき事業が集中している175haの区域を中心市街地と位置づけています。

### 4. 基本方針と目標

中心市街地の特性や、旧基本計画の検証に基づき新たな視点で、中心市街地を商業空間のみならず生活居住空間として捉え、「高崎の活力と新しい文化を創造・発信する“賑わい・交流・文化都心”」を基本理念に掲げて、以下の基本方針と目標を定めています。

	方 針	目 標	評価指標と数値目標
1	広域交通拠点の持つ高いポテンシャルを活かした経済活力の増進	高崎都市圏の地域活性化を牽引する、経済活力に満ちたまち～“商都・高崎”の再生～	小売業年間商品販売額 現況数値（H19年） 970億円 ↓ 数値目標（H25年） 1,200億円
2	新しく歩いて回遊できるコンパクトな中心市街地の形成	市民の出会いと交流の舞台となる、賑わいあふれるまち～広域交流拠点づくり～	歩行者・自転車通行量（休日） 現況数値（H18年） 22,400人 ↓ 数値目標（H25年） 27,500人
3	“音楽文化”を活かした高崎らしい中心市街地への取組み	音楽を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち～文化が薫るまちづくり～	各種文化施設の利用者数の合計値 現況数値（H19年） 663,800人 ↓ 数値目標（H25年） 704,300人

## 5. 事業の取組みと進捗状況

事業の実施にあたっては、“選択と集中”の視点に立って、高崎駅東口拠点開発、地元百貨店の増床計画、医療保健センター・新図書館建設の3事業を中心市街地の活性化を牽引する「リーディングプロジェクト」と位置づけて、市街地や都市福利施設の整備、住宅の供給及び居住環境の向上、商業の活性化などの様々な事業に取り組んでいます。

認定後、新たに2事業を追加し、「商都・高崎」の再生に向けた取組みを積極的に進め、認定基本計画掲載の65事業の進捗状況（平成22年3月末現在）は、事業完了が12事業、実施中が47事業、未着手が6事業となっています。

活性化戦略のリーディングプロジェクトである「高崎駅東口拠点整備」「医療保健センター・新図書館建設」を含め、概ね予定通り進捗している状況です。



高崎駅東口ペDESTリアンデッキ

## 6. おわりに

活性化基本計画認定後、“賑わい”の数値目標である中心市街地の「休日の歩行者・自転車の通行量」のH21年に実施したフォローアップによると増加傾向に転じていますが、一方、近年の景気の低迷により消費が伸び悩み傾向で、百貨店業界を始め地元商店街の売上げが低迷しています。

中心市街地にとって依然として厳しい状況が続いています。今後は、活性化協議会を始め、市民や事業者と行政が、さらに連携を強め、活性化事業を着実に推進していきたいと考えています。

(ひぐち けんいち)